

防災訓練の結果の概要（個別訓練）

1. 訓練の目的

本訓練は、「濃縮・埋設事業所 濃縮事業部 原子力事業者防災業務計画」に基づき実施する個別訓練であり、訓練を繰り返し行うことにより、手順書等の適用性や個々の知識・対応能力の習熟を目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2018年10月29日（月）～2019年11月25日（月）（詳細は添付資料参照）

(2) 対象施設

加工施設

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練毎に実施責任者を設け、実施担当者が訓練を実施した。

(2) 評価体制

定められた手順書等に基づき、各班の対策活動が適切に実施できるかを実施責任者が評価した。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

なお、実施責任者は訓練評価を行うため参加人数には含めない。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

六フッ化ウランが建屋内外へ漏えいし、原子力災害に至る過程の状況を想定した。

5. 防災訓練の項目

個別訓練

6. 訓練結果の概要（添付資料参照）

(1) 通報訓練

- ・ EAL判断に基づく、通報区分、通報様式および連絡先の確認を実施した。
- ・ 確実な通報・連絡の実施のために、通報時間の確認、通報文の正確性に関する運用方法および対応状況の確認を実施した。
- ・ 連絡責任者および本部事務局の任務および役割分担の確認等を実施した。
- ・ 通報に用いる資機材の取扱い方法の確認を実施した。

(2) 救護訓練（原子力緊急事態発生環境下）

- ・傷病者発生時の対応手順の確認を実施した。
- ・傷病者に関する情報収集および社外関係機関（模擬先）への通報連絡を実施した。
- ・傷病者の搬送・応急措置の対応状況の確認を実施した。
- ・防護服装備の着装訓練および放射線測定器類の取り扱い訓練を実施した。
- ・チェンジングルーム等の迅速な資機材移動および設営確認を実施した。

(3) モニタリング訓練（原子力緊急事態発生環境下）

- ・環境モニタリング時の測定手順の確認を実施した。
- ・モニタリングポスト／気象観測データ監視システムによる監視方法の確認を実施した。
- ・重大事故に至るおそれのある事故を想定し、建屋周辺のフッ化水素濃度測定対応の確認を実施した。
- ・モニタリングカーによる環境放射線のモニタリング方法および大気浮遊じんのサンプリング・測定方法について手順の確認を実施した。

(4) 避難誘導訓練（特定事象発生時）

- ・事象発生場所に応じた避難ルート選択・誘導および各配置場所対応事項の確認を実施した。
- ・行方不明者の探索方法の確認を実施した。
- ・現場活動の情報収集、携帯用装備台帳などの操作方法の確認を実施した。
- ・傷病者を救護班へ引渡すための誘導経路等の確認を実施した。
- ・非常時用防護服の着装訓練を実施した。
- ・管理区域内入域者情報の収集と確認を実施した。
- ・外部電源喪失時（全電源喪失含む。）の出入管理システムの確認を実施した。
- ・非常扉等からの退出者の措置対応の確認を実施した。

(5) その他必要と認める訓練

a. 運転管理訓練

- ・重大事故に至るおそれのある事故を想定した中央制御室における実働訓練を実施した。
- ・外部電源喪失（全電源喪失含む。）の対応確認（中央制御室）を実施した。
- ・設計基準事故を想定した対応確認（中央制御室）を実施した。
- ・大規模損壊時対応を想定した対応確認（中央制御室）を実施した。
- ・現場からの情報収集を受けて、COPおよびデゼエ入力訓練を実施した。

b. 放水訓練

- ・重大事故等に対処するため、簡易化学防護服および全面マスクの着装訓練を実施した。
- ・重大事故等に対処するため、化学消防車および屋外消火栓を使用した放水訓練を実施した。
- ・排気口からのUF6漏えいを想定し、化学消防車および防火水槽を使用した放水訓練を実施した。

c. 設備応急訓練

- ・屋外六フッ化ウラン漏えいを想定し、防護具装着訓練および重大事故用資機材（屋外）の運搬、取扱いを行い、屋外における応急復旧の活動内容確認を実施した。
- ・設計基準事故を想定した対応確認（現場）の確認を実施した。
- ・外部電源喪失（全電源喪失含む。）の対応確認を実施した。

- ・ 閉じ込め機能喪失およびインターロック機能故障時の応急復旧方法の確認を実施した。
 - ・ 防火水槽破損時の仮設防火水槽設営対処方法および使用資機材の確認を実施した。
 - ・ 航空機落下による大規模損壊事象を想定した対処方法および使用資機材の確認を実施した。
- d. 消火訓練（特定事象発生時）
- ・ 空気呼吸器の装着および化学消防車の操作について確認を実施した。
 - ・ 可搬式消火ポンプおよび屋外消火栓を用いた放水訓練を実施した。
- e. 全社対策本部等との連携訓練
- ・ E R C 対応に関する他社事例を踏まえた基本動作について、E R C 対応室との連携確認を実施した。
 - ・ 各情報フローおよびE R C 対応機器や資機材取扱手順を確認し、操作訓練を実施した。
 - ・ E R C 対応室（濃縮・埋設事務所内）および社内模擬E R C を設置し、昨年度の防災訓練シナリオなどを用いて、E R C 対応機器や資機材による社内模擬E R C への情報提供に関する対応訓練を実施した。
- f. 原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練
- ・ 原子力事業所災害対策支援拠点（以下、「支援拠点」という。）の設営（通信設備等の立上げ）および全社対策本部との情報共有に係る訓練を実施した。
 - ・ 支援拠点において使用する資機材の取り扱い訓練を実施した。
- g. 全社対策本部運営訓練
- ・ 事業部対策本部との情報共有、事業部対策本部への支援活動に係る訓練を実施した。

7. 訓練の評価

各対策活動が手順書および情報共有のための情報フローどおり実施できることを確認し、対策活動に係る能力の習得・向上を図ることができた。

8. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

訓練毎の今後に向けた改善点は添付資料のとおり。

〈添付資料〉

個別訓練の概要

以 上

個別訓練の概要

【濃縮事業部対策本部】

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|------------|--------------------------|---------------|------|---|--|
| 通報訓練 | ①本部事務局班長 ②本部事務局員 | 2019/ 5/31 | 9名 | <ul style="list-style-type: none"> ・ E A L判断基準に基づく通報区分の確認、通報様式の確認および通報連絡先を確認することができた。 ・ 確実な通報・連絡の実施のために、E A L判断基準に示す事象発生時の通報時間の確認、通報文の正確性を高めるための誤記、記載漏れ防止対策チェックシートによる確認を行うことができた。 ・ 想定事象に対する通報文の作成を行い、適切に作成することができた。 ・ 連絡責任者および本部事務局の任務および役割分担の確認等を行い、本部事務局が行わなければならない対応の再確認を行うことができた。 ・ 資機材の操作訓練を実施し、資機材を操作できることを確認できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 ・ 班員全員が全ての役割を実施できるように、班内の役割分担を変更して訓練を行い、班全体の技量向上を図る。 |
| | | 2019/ 6/18～19 | 9名 | | |
| | | 2019/ 7/22 | 6名 | | |
| | | 2019/ 7/29 | 9名 | | |
| | | 2019/ 8/ 2 | 2名 | | |
| | | 2019/ 8/27 | 11名 | | |
| | | 2019/ 9/26 | 2名 | | |
| | | 2019/10/ 3 | 3名 | | |
| | | 2019/10/17 | 6名 | | |
| | | 2019/10/28 | 2名 | | |
| | | 2019/11/ 7 | 7名 | | |
| 2019/11/18 | 8名 | | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|------|--------------------------|------------|------|---|--|
| 救護訓練 | ①救護班長 ②救護班員 | 2018/12/12 | 10名 | <ul style="list-style-type: none"> 対応手順および役割分担に応じた救急対応を行えることができた。 傷病者発生に伴い、傷病者引渡しおよび傷病者の情報伝達を確実にし、治療のために保健管理建屋まで搬送し外部機関へ連絡する一連の対応ができた。 搬送車両に同行必要な傷病者が発生した場合に対応電話を所持し、必要な情報を共有できた。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2019/ 7/26 | 10名 | | |
| | ①放射線管理班長 ②放射線管理班員 | 2018/11/14 | 16名 | <ul style="list-style-type: none"> 傷病者を公設消防および救護班へ引渡すまでの汚染者の身体サーベイ、除染、汚染拡大防止、除染機材の取扱いの対応の確認を行うことができた。 フッ化水素暴露者（複数発生時含む。）への対処（酸素吸入、除染、身体サーベイ）および汚染拡大防止の対応の確認を行うことができた。 防護服装備の着脱訓練および放射線測定器類の取扱い訓練を実施した。 チェンジングルーム等の迅速な資機材移動および設営ができることを確認した。 | |
| | | 2019/ 6/21 | 8名 | | |
| | | 2019/ 6/26 | 4名 | | |
| | | 2019/ 8/28 | 14名 | | |
| | | 2019/ 8/30 | 2名 | | |
| | 2019/11/ 6 | 26名 | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|------------|--------------------------|---------------|------|---|--|
| モニタリング訓練 | ①放射線管理班長 ②放射線管理班員 | 2018/11/14～15 | 22名 | <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポスト／気象観測データ監視システムの監視方法を確認した。 ・重大事故に至るおそれのある事故を想定し、建屋周辺のフッ化水素濃度測定対応の確認を行った。 ・モニタリングカーによる環境放射線のモニタリング方法および大気浮遊じんのサンプリング・測定方法について手順の確認を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める |
| | | 2018/12/25 | 1名 | | |
| | | 2018/12/28 | 8名 | | |
| | | 2019/ 3/13～14 | 2名 | | |
| | | 2019/ 3/25 | 14名 | | |
| | | 2019/ 6/13 | 11名 | | |
| | | 2019/ 6/19 | 11名 | | |
| | | 2019/ 6/21 | 8名 | | |
| | | 2019/ 6/26 | 9名 | | |
| | | 2019/ 6/28 | 11名 | | |
| | | 2019/ 7/ 1 | 9名 | | |
| | | 2019/ 7/ 4 | 8名 | | |
| | | 2019/ 7/24 | 16名 | | |
| | | 2019/ 7/29 | 2名 | | |
| | | 2019/ 8/ 9 | 2名 | | |
| | | 2019/ 8/28 | 14名 | | |
| | | 2019/ 9/26 | 3名 | | |
| | | 2019/10/ 3 | 1名 | | |
| 2019/11/ 6 | 26名 | | | | |
| 2019/11/ 7 | 17名 | | | | |
| 2019/11/19 | 15名 | | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|------------|--------------------------|---------------|------|--|---|
| 避難誘導訓練 | ①総務班長 ②総務班員 | 2019/ 2/21 | 3名 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象発生場所に応じた避難ルート選択・誘導および各配置場所対応事項の確認を行うことができた。 ・行方不明者の捜索・救助方法の確認を行うことができた。 ・現場活動の情報収集、携帯用装備台帳などの操作の確認を行うことができた。 ・傷病者を救護班へ引渡すための誘導経路等の確認を行うことができた。 ・呼吸用ボンベ付一体型防護マスク、化学防護服（簡易型）の着装を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2019/ 3/15 | 21名 | | |
| | | 2019/ 3/20 | 3名 | | |
| | | 2019/ 6/19 | 22名 | | |
| | | 2019/ 6/26～27 | 2名 | | |
| | | 2019/ 7/25 | 19名 | | |
| | | 2019/ 8/ 2 | 5名 | | |
| | | 2019/ 8/21 | 14名 | | |
| | | 2019/ 8/29 | 12名 | | |
| | 2019/11/12 | 24名 | | | |
| | ①放射線管理班長 ②放射線管理班員 | 2018/11/14 | 16名 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理区域内入域者情報の収集と確認について、「出入管理システムからの情報、現場確認情報をもとに作成できた。 ・外部電源喪失時（全電源喪失含む。）の出入管理システムおよび通信連絡手段の確認を行った。 ・非常扉等からの退出者の措置対応について、非常扉等から退出者に対して身体サーベイ、避難経路の環境測定、EPDの回収について理解することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2019/ 3/25 | 16名 | | |
| | | 2019/ 6/19 | 10名 | | |
| | | 2019/ 7/ 1 | 6名 | | |
| 2019/ 7/ 4 | | 8名 | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-------------------------|--------------------------|---------------|------|--|---|
| その他必要と認める訓練 (運転管理訓練) | ①運転管理班長 ②運転管理班員 | 2018/11/29 | 20名 | <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故に至るおそれのある事故を想定した中央制御室における実働訓練を行うことができた。 ・設計基準事故を想定した中央制御室における実働訓練を行うことができた。 ・外部電源喪失（全電源喪失含む。）の対応確認（中央制御室）を行うことができた。 ・大規模損壊時対応確認（中央制御室）を行うことができた。 ・現場からの情報収集を受けて、COPおよびデヂエ入力を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2018/12/25 | 11名 | | |
| | | 2019/ 2/21 | 25名 | | |
| | | 2019/ 3/26～29 | 24名 | | |
| | | 2019/ 6/20 | 34名 | | |
| | | 2019/ 6/26～27 | 9名 | | |
| | | 2019/ 8/ 6 | 35名 | | |
| | | 2019/ 8/11 | 6名 | | |
| | | 2019/ 8/13 | 6名 | | |
| | | 2019/ 8/27 | 41名 | | |
| | | 2019/ 9/2～3 | 7名 | | |
| | | 2019/ 9/ 5 | 5名 | | |
| | | 2019/ 9/30 | 22名 | | |
| | | 2019/10/ 9 | 6名 | | |
| | | 2019/10/10 | 12名 | | |
| 2019/10/31 | 6名 | | | | |
| 2019/11/12 | 30名 | | | | |
| 2019/11/20 | 30名 | | | | |
| 2019/11/25 | 35名 | | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-----------------------|--------------------------|------------|------|---|---|
| その他必要と認める訓練 (放水訓練) | ①消火班長 ②消火班員 | 2019/ 6/13 | 10名 | <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等に対処するため、簡易化学防護服および全面マスクの着装を行うことができた。 ・重大事故等に対処するため、化学消防車および屋外消火栓を使用した放水（ポンプ起動、ホース展張、ノズル操作、実放水）を行うことができた。 ・排気口からのUF6漏えいを想定し、化学消防車および防火水槽を使用した放水（ポンプ起動、ホース展張、ノズル操作、実放水）を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2019/ 6/26 | 9名 | | |
| | | 2019/ 7/ 5 | 1名 | | |
| | | 2019/ 7/22 | 10名 | | |
| | | 2019/ 7/30 | 10名 | | |
| | | 2019/11/11 | 8名 | | |
| 2019/11/21 | 10名 | | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-------------------------|--------------------------|---------------|------|--|---|
| その他必要と認める訓練 (設備応急訓練) | ①設備応急班長 ②設備応急班員 | 2018/11/27 | 16名 | <ul style="list-style-type: none"> ・屋外六フッ化ウラン漏えいを想定し、防護具装着および重大事故用資機材（屋外）の運搬、取扱いを行い、屋外における応急復旧活動内容の確認を行うことができた。 ・設計基準事故を想定した対応確認を行うことができた。 ・外部電源喪失（全電源喪失含む）の対応確認を行うことができた。 ・閉じ込め機能喪失およびインターロック機能故障時の対処方法の確認を行うことができた。 ・防火水槽破損時の仮設防火水槽設置対処方法および使用資機材の確認を行うことができた。 ・航空機落下による大規模損壊事象を想定し、外壁損傷箇所目張り方法および使用する資機材の確認を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2018/12/25 | 20名 | | |
| | | 2019/ 4/25 | 21名 | | |
| | | 2019/ 5/ 7 | 1名 | | |
| | | 2019/ 5/28 | 19名 | | |
| | | 2019/ 5/30 | 2名 | | |
| | | 2019/ 6/21 | 22名 | | |
| | | 2019/ 7/23 | 23名 | | |
| | | 2019/ 8/22～23 | 23名 | | |
| | | 2019/ 9/19 | 13名 | | |
| | | 2019/ 9/24～25 | 12名 | | |
| | | 2019/10/24～25 | 23名 | | |
| 2019/11/11～12 | 22名 | | | | |
| 2019/11/14～15 | 3名 | | | | |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-----------------------|--------------------------|------------|------|---|---|
| その他必要と認める訓練 (消火訓練) | ①消火班長 ②消火班員 | 2019/ 5/30 | 4名 | <ul style="list-style-type: none"> ・空気呼吸器の装着および化学消防車の操作を確認することができた。 ・可搬式消火ポンプおよび屋外消火栓を用いた放水を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2019/ 6/ 5 | 5名 | | |
| | | 2019/ 8/27 | 6名 | | |
| | | 2019/ 9/ 3 | 10名 | | |
| | | 2019/10/ 8 | 4名 | | |
| | ①運転管理班長 ②運転管理班員 | 2019/ 6/24 | 3名 | <ul style="list-style-type: none"> ・空気呼吸器の装着および消火活動に使用する資機材の使用方法を確認することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 |
| | | 2019/ 6/25 | 4名 | | |
| | | 2019/ 6/26 | 4名 | | |
| | | 2019/ 6/27 | 5名 | | |
| | | 2019/ 6/28 | 9名 | | |
| | | 2019/ 7/ 2 | 4名 | | |
| | | 2019/ 7/ 8 | 5名 | | |
| | | 2019/11/ 1 | 5名 | | |
| | | 2019/11/ 5 | 5名 | | |
| | | 2019/11/ 6 | 7名 | | |
| | | 2019/11/ 7 | 9名 | | |

| 訓練項目 | 実施体制※ ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|--------------------------------|---------------------------|------------|-------|---|--|
| その他必要と認める訓練 (全社対策本部等との連携訓練) | ①本部事務局班長 ②本部事務局班員 | 2019/ 4/11 | 1 6 名 | <ul style="list-style-type: none"> ・ E R C 対応に関する基本動作（E A L 判断根拠や1 0 条確認会議、1 5 条認定会議の説明方法、E R C プラント班との連携など）および他社事例などを確認することができた。 ・ 各情報フロー（E A L 判断、設備状況、戦略、設備概要、Q A、プラントデータおよびM P 情報）を使用した情報共有およびE R C 対応機器（T V 会議システム、書画、電子ホワイトボード、デジエ、音声共有システムなど）や資機材を確認することができた。 ・ E R C 対応室（濃縮・埋設事務所内）および社内模擬E R C プラント班を設置し、昨年度の防災訓練シナリオなどを用いて、E R C 対応機器や資機材によるE R C への情報提供に関する対応を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、定期的に訓練を行い、技量の維持・向上に努める。 ・ E R C 対応者の更なる知識、技量向上を図る。 |
| | | 2019/ 5/10 | 2 6 名 | | |
| | | 2019/ 7/ 1 | 2 8 名 | | |
| | | 2019/11/ 8 | 2 3 名 | | |
| | | 2019/11/19 | 3 6 名 | | |

※本部事務局（訓練事務局）が訓練実施主体として実施した。

【全社対策本部】

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-------------------------------------|--|--------------|------|--|--|
| その他必要と認める訓練 （原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練） | ①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員（事務局、総務班、電力対応班） | 2019/1/18 | 10名 | <ul style="list-style-type: none"> 再処理事業所体育館（屋内）にて、エアーテントの設置訓練を実施した。 <評価> <ul style="list-style-type: none"> エアーテントの設置に係る手順が理解され、問題なく設置することができた。ただし、エアーテントの部品の取り扱いに不慣れな点があることから、取扱いについて習熟させる必要があることを確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> 次回訓練でエアーテントの部品の取扱いについて習熟させる。 |
| | | 2019/1/21 | 6名 | <ul style="list-style-type: none"> 支援拠点を第一千歳平寮に設営し、通信設備（電話およびFAX）を立ち上げ、全社対策本部との情報共有を実施した。 <評価> <ul style="list-style-type: none"> 支援拠点マニュアルに基づき、支援拠点での通信設備の立ち上げおよび全社対策本部との情報共有を実施できた。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後、定期的に訓練を行い、必要な知識の習得、技能の維持および向上に努める。 |
| | ①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員（事務局、総務班、電力対応班、放射線情報収集班） | 2019/7/25～26 | 22名 | <ul style="list-style-type: none"> 2019年1月18日の個別訓練で抽出した課題（エアーテント等の取り扱いが不慣れ）の対策として、再処理事業所体育館（屋内）にて、エアーテント製作メーカーの指導のもと、エアーテントの設置訓練を実施した。 <評価> <ul style="list-style-type: none"> エアーテント本体および付属品の取扱いについて理解することができた。 付属品である給湯器について、吐出温度設定に関する説明を掲示する必要があることを確認した。 テント内幕取付け作業において、作業性を高めるために軽量の脚立を配備する必要があることを確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> 給湯器に温度設定に関する説明（温度調整60℃設定にすること）を掲示する。（11月8日掲示済み） テント内幕取付け作業に使用する軽量の脚立を配備する。（11月20日配備済み） 今後、定期的に訓練を行い、必要な知識の習得、技能の維持および向上に努める。 |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|---|---|------------|------|---|---|
| <p>その他必要と認める訓練 （原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練）</p> | <p>①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員（事務局、電力対応班）</p> | 2019/10/25 | 7名 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援拠点を第一千歳平寮に設営し、通信設備（電話およびFAX）を立ち上げ、全社対策本部との情報共有を実施した。 ・支援拠点（屋外）にて、エアーテントの設置訓練を実施した。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援拠点マニュアルに基づき、支援拠点での通信設備の立ち上げおよび全社対策本部との情報共有を実施できた。 ・エアーテント設置手順書に基づき、支援拠点でエアーテントを設置することができた。 ・全社対策本部から持ち出す携帯電話に主要拠点の連絡先を登録する必要があることを確認した。 ・移動車両に主要拠点の連絡先一覧表を配備する必要があることを確認した。 ・エアーテントの設置に関し、強風のため、当初計画していた設置要員を4名から6名に増員（テントを支える要員2名を増員）し対応したため、必要要員数を検証する必要があることを確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全社対策本部から持ち出す携帯電話に、第一千歳平寮の衛星携帯電話番号と移動車両の衛星携帯電話番号を登録する。（11月13日登録済み） ・移動車両に全社対策本部と第一千歳平寮の連絡先一覧表を配備する。（11月11日配備済み） ・強風時のエアーテント設置について、ウォーターウエイトを使用した訓練を実施し、必要要員数を次回の訓練で再検証する。 ・今後、定期的に訓練を行い、必要な知識の習得、技能の維持および向上に努める。 |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-------------------------------------|--|------------|------|--|---|
| その他必要と認める訓練 （原子力事業所災害対策支援拠点設営訓練） | ①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員（事務局、電力対応班、放射線情報収集班、総務班） | 2019/11/19 | 19名 | <ul style="list-style-type: none"> 再処理事業所一般車輛車庫にて、可搬式発電機および除染用高圧洗浄機の取扱い訓練を実施した。 <評価> <ul style="list-style-type: none"> 可搬式発電機、除染用高圧洗浄機の仕様および操作手順について、受講者全員が手順を理解したことを確認した。 可搬式発電機の操作に関し、交流スイッチの位置が分かり難いため、交流スイッチの位置に関する説明を掲示する必要があることを確認した。 可搬式発電機の操作に関し、バッテリーアース接続時の締付け具合について、端子がぐらつかない程度の締付けで問題ない旨を掲示する必要があることを確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> 可搬式発電機の交流スイッチの位置に関する説明を掲示する。（11月21日掲示済み） 可搬式発電機本体にバッテリーアース接続時に関する説明を掲示する。（11月21日掲示済み） 今後、定期的に訓練を行い、必要な知識の習得、技能の維持および向上に努める。 |
| | ①全社対策本部事務局副班長 ②全社対策本部要員（事務局、電力対応班、放射線情報収集班） | 2019/11/21 | 9名 | <ul style="list-style-type: none"> 支援拠点を第一千歳平寮に設営し、通信設備（電話およびFAX）を立ち上げ、全社対策本部との情報共有を実施した。 支援拠点（屋外）にて、エアータントの設置訓練を実施した。 <評価> <ul style="list-style-type: none"> 支援拠点マニュアルに基づき、支援拠点での通信設備の立ち上げおよび全社対策本部との情報共有を実施できた。 エアータント設置手順書に基づき、支援拠点でエアータントを設置することができた 2019年10月25日の個別訓練で抽出した課題（強風時におけるエアータント設置要員数の検証）について、ウォーターウエイトを使用した場合、当初の要員4名で設営できることを確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> エアータント設置時のウォーターウエイトの使用について、エアータント設置手順書への反映を検討する。 今後、定期的に訓練を行い、必要な知識の習得、技能の維持および向上に努める。 |

| 訓練項目 | 実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者 | 実施日 | 参加人数 | 実施結果 | 今後の原子力災害対策に向けた改善点 |
|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------|------------|--|--|
| <p>その他必要と認める訓練 （全社対策本部運営訓練）</p> | <p>①全社対策本部事務局班長 ②全社対策本部要員</p> | <p>2019/11/21</p> | <p>88名</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全社対策本部室にて、TV会議システム、音声共有システム等を用いて、事業部対策本部からプラント状況、事故収束状況等の情報を入手し、全社対策本部内で情報共有を実施した。 ・即応センター、支援拠点およびオフサイトセンターにて、全社対策本部との連携を実施した。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社対策本部運用に関する手順に基づき、全社対策本部の運営を実施できた。 ・全社対策本部運用に関する手順に基づき、即応センター、支援拠点およびオフサイトセンターでの活動状況を全社対策本部へ報告することができた。 ・埋設事業部総合訓練（2019年10月29日）において課題となった社員・作業員の安否情報の集約について、「全社対策本部総務班安否確認集約リスト」を運用し、速やかに情報を収集し、対策本部内に周知することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、定期的に訓練を行い、必要な知識の習得、技能の維持および向上に努める。 |